

令和6年度 江戸川区立下鎌田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	一しなやかで、たくましい心とからだを育む下鎌田小 ○思いやりのある子 ○よく考える子 ○明るく元気な子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○自分のめあてに向かって最後までやり通す子供 ○友達との競い合いを通して、自己を尊重できる子供 ○探究心が旺盛で、何事にもチャレンジし、失敗してもへこたれない子供 ○美しいものに感動する豊かな感性をもつ子供
前年度までの本校の現状	成果 ○下鎌田小学校、下鎌田西小学校の統合により開校した1年目だったが、大規模校として学校行事等の実施方法を工夫し、運営することでねらいを十分達成できた。また、年度内であっても保護者アンケートなどを生かして実施方法を改善することで、より良い学校運営に努めた。	課題	○統合1年目ということもあり、遠足や持久走など実施ができなかった行事があった。 ○全国学力調査では全国平均をやや下回り、児童の積極性にも課題が見られた。 ○児童数に対して校庭や体育館が狭いため、毎日運動できる場所を確保するのが難しかった。 ○朝や登校時等、自発的に挨拶をできる児童が少なかった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の実施・有効活用 電子ドリルや東京ベーシック・ドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習の140回以上の実施。 診断テストの正答率低学年90%、中学年70%、高学年70%を達成。 	80%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習は1学期に39回実施。 診断テスト低学年は未実施、3年生75%、4年生68%、5年生68%、6年生61% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な内容についても補習などを通して身に付けていってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習143回実施。 2月に当該学年の診断テストを実施し、低学年平均89%、中学年平均76%、高学年平均66%であった。年度末に向け、苦手な領域を重点的に復習していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年によって得手不得手もあるかもしれないが、要因を分析し、より一層の努力を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックやドリルパークを活用した診断とその結果を基にした補習を継続する。 校内研究を通して教員全体で学んでいき、工夫・改善を進めていく。
	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業の実施 ミライシードをはじめとした学習アプリやiPadの日常的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川っ子study week!を実施し、ドリルパークの家庭学習を80%以上の児童が修了。 	86%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の朝学習、授業、宿題等で実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通信環境の関係で学校で一斉に取り組むことは難しいが、今後も継続していく必要があると思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習等でドリルパークの課題に取り組み、全校で平均して85%以上の児童が出された課題を修了した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭を巻き込みながら働きかけていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ミライシードを活用した家庭学習を全学年85%以上の児童が達成することを目標とする。 タブレットを効果的に活用しながら授業改善に取り組み。
	授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 高学年での教科担任制の実施。 研究授業6回実施。 OJT研修年10回以上実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の質問紙調査で算数・国語が「よくわかる」国語46%、算数56%。 研究授業を通して算数科授業改善の意識が向上している。 	70%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の質問紙調査で、「よくわかる」国語46%、算数56%。 研究授業を通して算数科授業改善の意識が向上している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の熱心な指導に感謝する。授業研究を通しての指導力向上にますます努めてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を通して成果と改善点を共有することで、授業改善が進んだ。80%以上の教員がそれを実感している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き研鑽を積んで、さらなる授業力向上を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制実施では、専門性の高い授業を行っていく。 計画通りに校内研究を行い成果を来年度の教育活動につなげる。 若手教員の育成を様々な場面で継続して行う。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書69回以上。 学校応援団と連携した読み聞かせ毎学期実施。 各学年12時間以上の読書科授業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書を「好き」と答える児童70%以上。 1日の読書30分以上する児童40%以上。 	80%	100%	B	<ul style="list-style-type: none"> 読書を「好き」と答える児童7月で79%。 1日の読書30分以上の児童は7月で33%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせをすることで読書が好きなお子が増やせる。本が好きなお子を増やし、読書の時間をさらに確保するとよい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読書を「好き」と答える児童12月で80%。 1日の読書30分以上の児童は12月で40%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせでは、児童が自分から選ばない本も選んでもらっており、児童の世界が広がっている。引き続き児童の関心を高める取り組みを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や行事に合わせてコーナーなどを設置し、児童が来たいと思える図書づくりを進めていく。
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や休み時間における運動遊びなど、主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の実技研修学期1回以上実施。 週に420分以上運動する児童60%以上 	80%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育科で実技研修を1学期は1回実施。 週に420分以上（1日1時間以上）運動する児童61%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 運動と合わせて生活リズムも大切。保護者の協力を得て、規則正しい生活ができるようにしてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の実技研修を毎学期1回以上実施。 週に420分以上運動する児童が12月で53%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公園での遊びが制限されるなど児童が思い切り遊べる場所も減っている。今後も学校でたくさん体を動かせるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びや縄跳びの研修を行い、運動の機会を増やしたり、楽しさを伝えたりする。
	学期に1回のなわ跳び週間の設定	<ul style="list-style-type: none"> 70%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加 	80%	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 原則として全員が参加。今後、なわとび週間が終わっても自主的に取り組むような更なる動きかけが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期には持久走大会も計画中。更なる体力向上を期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> なわとびは全員参加。なわ跳びタイム以外でも短なわ・長なわに取り組み児童が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 持久走大会などの取組はよい。今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> なわとびタイムや持久走タイムを確保し、運動の日常化を図る。 	
実現に向けた教育の推進	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員、SC、特別支援Cの連携を深め、個に応じた対応を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員による2年生全学年級への理解教育の実施。 	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に2年生全学年級への理解教育を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の特別支援校内委員会、毎週末の生活指導夕会で情報を共有し、全校の共通理解のもと指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 理解教育をはじめインクルーシブ教育が社会の流れ。継続的な取り組みを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も2年生で理解教育を実施する。
	副籍交流の実施	<ul style="list-style-type: none"> 近隣特別支援学校に通う児童との副籍交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して副籍の児童との交流を実施。 	70%	70%	B	<ul style="list-style-type: none"> 副籍児童の保護者、本籍校との打ち合わせを実施。1学期は間接交流のみだったが、2学期より直接交流も開始。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 副籍交流はよい取組なので積極的に進めてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期には運動会で直接交流を実施。保護者からの要望に応えることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も保護者、児童の要望に寄り添って、副籍交流を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事での交流だけでなく理解教育も行うことができた。来年度も積極的に進める。
	人間関係の基礎となるコミュニケーションスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体であいさつを励行し、元気でさわやかな挨拶ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんであいさつをする」について保護者による好評価50%以上。 	70%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんであいさつをする」について児童自身の肯定的評価は87%。今後、相手意識をもって挨拶できるよう、さらなる働きかけが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 取組は評価する。子供たちだけでなく、保護者にも働きかけ、元気でさわやかなあいさつができるように粘り強く取り組んでほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんであいさつをする」について児童自身の肯定的評価は86%。「み・そ・あ・じ」についての肯定的回答は59%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは保護者と児童の認識が違っているようにも感じる。意識を合わせるとともに、家庭を巻き込んだ取組を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の取組としての「あいさつ運動」や、保護者会や「生活指導だより」等で家庭への啓発を行う。
不登校・いじめ対応の充実	不登校、いじめ等への対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会による児童の情報共有を毎週実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関等どこにもつながっていない不登校児童0人。 いじめ未解決事案0件。 	80%	70%	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは『認知して解消する』」という考えのもと、児童同士の関係づくりに努めている。重大事案につながるような事例はない。今後も継続的に見守っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校に足が向かない児童については、SSWや地域の協力も得ながら働きかけていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの認知件数は昨年に比べて増加したが、認知したものをすべてに対応し、解決に向かっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、いじめの解消に向けて取組を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員共有の「いじめ事案記録ファイル」を活用するとともに、月1回の「いじめ対策委員会」(情報共有会)を実施する。
	エンカレッジルームの活用	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームを活用した登校支援。 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの担当教員を毎時間配置。 	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルーム担当教員を全時間配置。 	B	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームを利用する児童が増えると、先生方の負担が増す。エンカレッジルームを担当する教員の配置を望む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登校時にエンカレッジルームで学習する児童の対応を担当教員が実施。今後も継続的に配置予定。エンカレッジルームに来るまでが課題。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き家庭との連携を大切に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携しつつ、エンカレッジルーム担当教員の配置を行い、児童の登校を支援していく。
	hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUの結果をもとに、学級指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUの結果について年に1回は研修を行い、結果を基に学級経営の充実を図る。 	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUについて、外部講師を招いて1学期中に研修を実施。結果を個人面談で保護者に返し、2学期以降の学級経営の充実を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 統合2年目になるが、子供同士が一体となっているのを感じる。統合して子供の人数が増えたことで、活気生まれているように感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期にhyper-QUの個票を個人に返すとともに、結果を受けて、学級経営の改善を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子供を大切にしたい学級経営を今後も期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は-GATEも活用しつつ、児童の様子をきめ細かく見取っていく。
学校（園）開かれた地域社会の実現	○学校（園）ホームページの充実等	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、月に2回以上はHPを更新。 tetoruで学校情報をタイムリーに発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、教育活動等の情報を分かりやすく、タイムリーに保護者に伝えている」好評価90%以上。 	58%	87%	C	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数2回以上の達成率58%。教育活動について保護者への発信を強化する。 tetoruで必要な情報をタイムリーに発信できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新は月2回以上を目指していくのはよいが、教員の負担にならない程度でよい。 今後もtetoruを活用しての情報発信を行うとよい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数2回以上の達成率75%。学期末に発信が少なくなる傾向があるため改善を図る。 保護者評価の肯定的回答は87%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPは内容が更新されないとなかなか見ることがない。給食以外にも更新回数を増やすなど、今後も発信を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は担当を明確にし、各学年2回以上の更新が達成できるようにする。 tetoruは引き続き活用していく。
	○学校公開の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開を活用して、学校の全曜日の授業を保護者が参観できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開を年4回実施。 「学校は保護者の要望を受け止めて対応している」好評価80%以上。 	80%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に学校公開を2回実施。時間の制限をなくし、保護者が見たい時間に参観できるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も取組を継続し、学校の様子を見せることで、保護者の学校への理解が深まることを期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開は年4回実施した。 校庭の広さと参観者の人数比の関係で音楽会・運動会は人数を制限。 保護者評価の肯定的回答は81%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> できる限り人数制限しないで参観できる場を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は土曜公開3回の予定。参観内容、場所等を見ながら、参観時の人数制限について検討していく。
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域が学校の教育活動を評価する機会を設定。 年3回学校評議員会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> Formsを活用し、毎学校公開後に広く保護者や学校関係者の意見を集め、学校経営の改善に生かす。 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開についてFormsでアンケートを実施。改善点は即座に運営に生かしており、肯定的な評価が多数。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 改善できることはどんどん改善してほしい。昨年度よりもいろいろな面で改善していることを実感している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートもFormsを利用して実施。221件の回答。 学校運営にできる限り反映させている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に比べ、保護者の学校への理解が進んだ。今後も保護者の意見を反映させながら学校運営を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、改善できることは年度をまたがずに改善していく。 保護者アンケートの回答数を増やしていく。
教育の特色ある展開	「本物の体験」を通して豊かな心を育成	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーによる授業・体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、ゲストティーチャーによる授業を実施し、よさを実感することのできた児童90%以上（アンケートによる）。 	92%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は田植え、水道キャラン、稲藪教室、自転車安全教室などを実施。 ゲストティーチャーによる授業への肯定的回答92%。2学期以降も児童に体験の学びの機会を設定していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も多様な体験を子供たちにさせて、豊かな心を育ててほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降もマジック教室、狂言教室、ふれあい動物園など各学年の学習内容や発達段階に合わせて実施。 ゲストティーチャーによる授業への肯定的回答90%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多様な体験、地域との連携など児童の心を育む体験を今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も多様な体験活動を取り入れていく。
	児童の願いを実現する活動	<ul style="list-style-type: none"> 金管バンド、ネオホッケークラブの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に金管バンド、2学期にネオホッケークラブを設置し、児童の満足度90%以上。 	91%	94%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に金管バンドを設置し、音楽会、管楽器演奏発表会に向けて週3回の朝練集を実施。 児童の満足度91%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会での金管バンドの演奏は迫力があり素晴らしい。今後も継続し、子供たちの主体性を高めていってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 金管バンドは管楽器演奏発表会に参加。 2学期にネオホッケークラブを設置し、2月の東部地区の大会に10チーム参加。 児童の満足度94%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 金管バンドは区内屈指の大バンド。ネオホッケーは地区最大の児童参加数。今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の金管バンドの希望者が増加。児童の希望に寄り添った運営をしていく。